

# 平成26年度 病害虫発生予報 第4号

平成26年7月18日  
栃木県農業環境指導センター

## ○水稻の斑点米カメムシ類の発生に注意しましょう！ ○イチゴ炭疽病の発生に注意しましょう！

予想期間 7月下旬～8月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

### 1 水稻 斑点米カメムシ類

- (1) 発生予想 発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 7月中旬のすくい取り調査での発生量は平年並(平年比：成幼虫数84%)。(±)  
・ 向こう1か月の平均気温は高い見込みで、発生に適している。(+)
- (3) 対 策 ・ 穂ぞろい期に斑点米カメムシ類が水田内で見られる場合は、乳熟初期(出穂期7～10日後)までにMR. ジョーカーEW、スタークル(スタークルメイト)液剤10等を散布する。  
・ 防除後も斑点米カメムシ類が見られる場合は、7～10日間隔で1～2回の追加散布を行う。
- (4) 備 考 ・ [植物防疫ニュースNo.9\(水稻・斑点米カメムシ類\)](#)を当センターHPに掲載中。

### 2 水稻 いもち病

- (1) 発生予想 発生量： **平年並**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少(平年比：ほ場率42%、株率5%)。(-)  
・ BLASTAM(葉いもち感染好適日条件)では、7月上旬に感染好適日が連続している(13日現在)。(+)
- (3) 対 策 ・ 向こう1か月の平均気温は高く、降水量は平年並～多い見込みである。(±)  
・ 発生が見られた場合には、早急にブラシフロアブル等の予防・治療効果のある薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・ 感染好適条件は平均気温20℃前後で、弱い連続降雨がある時。  
・ [BLASTAMの情報](#)を当センターHPに掲載中。

### 3 いちご 炭疽病

- (1) 発生予想 発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(平年比：ほ場率164%)。(±)  
・ 向こう1か月の平均気温は高い見込みで、発生に適している。(+)
- (3) 対 策 ・ 水滴の飛散等で伝染するので、頭上かん水は避け、できるだけ水の跳ね返りのないかん水を行う。  
・ 風通しを良くするとともに、茎葉のぬれ時間が長くないよう、かん水はできるだけ晴天日の午前中に行い、曇雨天日及び夕方のかん水を控える。  
・ 症状が出てからの防除は困難なので、予防を主体にベルコート水和剤、アントラコール顆粒水和剤等をローテーション散布する。  
・ 発病株、発病した葉及びランナーは見つけ次第取り除き、ほ場外で処分し、速やかにサンリット水和剤やゲッター水和剤等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [植物防疫ニュースNo.8\(いちご・炭疽病\)](#)を当センターHPに掲載中。

### 4 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(平年比：ほ場率102%、株率141%)。(±)  
・ 主要薬剤の殺虫効果が低下しており、密度抑制が困難である。(+)
- (3) 対 策 ・ 向こう1か月の平均気温は高い見込みで、発生に適している。(+)  
・ 雑草はハダニ類の発生源となるため、除草を徹底する。  
・ 苗による本ぼへの持ち込みを防ぐため、育苗床での防除を適正に行う。  
・ 気門封鎖剤を活用し、有効薬剤を温存する。
- (4) 備 考 ・ [「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果」](#)を当センターHPに掲載中。

### 5 トマト コナジラミ類

- (1) 発生予想 発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(平年比：ほ場率117%、葉率47%)。(±)

- (3) 対策
  - ・向こう1か月の平均気温は高い見込みで、発生に適している。(+)
    - ・ほ場周辺の除草を徹底する。
    - ・施設の開口部に0.4mm目以下の防虫ネットを張り侵入を防ぐ。光反射シートや紫外線カットフィルムも効果がある。
- (4) 備考
  - ・今後定植する作型では、育苗期及び定植時にベストガード粒剤等を施用する。
  - ・タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルスを媒介するので注意する。
  - ・[「果菜類に発生したタバココナジラミの薬剤感受性検定結果」](#)を当センターHPに掲載中。

## 6 大豆・野菜類・花き類 ハスモンヨトウ

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠
  - ・7月第2半旬までのフェロモントラップへの誘殺数は多い。(+)
    - ・向こう1か月の平均気温は高い見込みで、発生に適している。(+)
- (3) 対策
  - ・定期的にはほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。
  - ・ハスモンヨトウの幼虫は齢期が進むと薬剤が効きにくくなるので、発生初期に薬剤を散布する。

## 7 野菜類・花き類 タバコガ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠
  - ・7月第2半旬までのフェロモントラップへの誘殺数はやや多い。(+)
    - ・向こう1か月の平均気温は高い見込みで、発生に適している。(+)
- (3) 対策
  - ・発生初期に、浸透移行性の高い薬剤（プレバソンフロアブル5<適用作物：トマト、なす等>[材カゴカ]、アニキ乳剤<適用作物：いちご、トマト、なす、きく等>[材カゴカ]等）で防除する。
  - ・施設栽培では、開口部に防虫ネット等を張り、侵入を防ぐ。
  - ・植物組織内部に食入するため、被害果実ほ場外に持ち出して適切に処分する。
- (4) 備考
  - ・果実や花、頂芽などに寄生するため、防除が遅れると被害が大きくなる。寄生されやすい部位をこまめに観察する。

## 8 その他の病害虫

		現況	発生予想			現況	発生予想
水稲	縞葉枯病	多	多	ぶどう	べと病	少	やや少
いちご	うどんこ病	並	並		黒とう病	多	やや多
トマト	葉かび病	多	多	きく	ハダニ類	並	やや多
なし	黒星病	やや少	やや少		アザミウマ類	多	多

### ○水稲の縞葉枯病の発生に注意しましょう

本年の縞葉枯病は、前期発病(ゆうれい症状)の発生が早く、これまで7月上旬に発生ほ場がほとんど見られなかった県北部でも広く確認されています。また県中南部では発生株率も多い状況です。今後、出穂期以降は、後期発病(出すくみ等)も増えてきます。発生状況をよく確認し、要防除水準(黄熟期発生株率10%)を超えるほ場が見られる地域では、次年産に向けた対策を検討しましょう。

### ○農業は適正に管理し、正しく使いましょう(6~8月は農業危害防止運動期間です!)

☆同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

### 1か月気象予報(予報期間7月12日から8月11日 7月10日気象庁発表)

期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が多く、気温がかなり高くなる見込みです。期間の後半は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。週別の気温は、1週目は高い確率70%、2週目は平年並の確率50%です。3~4週目は平年並または高い確率ともに40%です。

	低い(少ない)確率	平年並の確率	高い(多い)確率
○気温	20%	30%	50%
○降水量	20%	40%	40%
○日照時間	40%	40%	20%

### NEWS & INFORMATION

☆「平成26年度 農作物等病害虫雑草防除の手引き」が発行されています。お求めの方は、栃木県農業者懇談会(028-647-2622)にお問い合わせ願います。

詳しくは[農業環境指導センター](#)(Tel:028-626-3086 Fax:028-626-3012)までお問い合わせください。  
 病害虫情報発表のお知らせは「[農政部ツイッター\(@tochigi\\_nousei\)](#)」でも発信中です。